

古い伊敷村と新しい伊敷村がある  
さらには満家院みつえいんでもあり鹿児島城下の遠名でもあり

伊敷は古代から中世にかけて鹿児島郡の中核の1つでした。中央から派遣されてきた役人である伴氏の館も設けられ、南北朝時代は伊敷の領主・矢上一族の拠点もありました。名前の由来とされる農業神・伊爾色神いにしきを祭る神社の存在も古からの農業地としての役割を伝えています。また伊敷北部地区は中世においては満家院と呼ばれ、比志島氏などが勢力を有していました。

室町期には薩南学派の祖である桂庵玄樹も庵を構え、その門流の一翁も犬迫村の出身です。近世には鹿児島城下の遠名（郊外）として新田開発が行われ、各地に田の神も建立されました。また溶結凝灰岩の産地であることから石工職人が多数活躍し、鹿児島城下の重要な建物の築造に貢献しました。その名残は「地突き踊り」の芸能としても伝承されています。

犬迫村横井は街道沿いとして野町が繁栄し、参勤交代の行列も通行しました。甲突川沿いの街道も花尾詣に利用され、鹿児島城下の人々の信仰を集める場所も各地にありました。遠名であることから士族も居住し、幕末には皆与志から川路利良が出ています。

明治 22(1889)年から町村制が施行されると伊敷村として発展し、隣接する人口密集地の鹿児島市を支える地域として、宅地、農地、軍事、教育のあらゆる面で環境を整えてきました。

## 1. 地域の拠り所の神社には何かがある

伊敷地域の各集落には神社が点在しています。明治期に入ると合祀されたため、江戸期に比べると少なくなりましたが、それでも地域の拠り所として伝統行事が奉納されるなど現在でも地域で大切にされています。それだけに、神社の境内には地域の歴史を伝えてくれる記念碑や廃仏毀釈を逃れた石仏などが安置されています。

### ①伊敷諏訪神社境内の桜島爆震記念碑

諏訪神社の境内には、大正3(1914)年に桜島が大噴火したことを示す記念碑があります。詳細な被害状況は彫られていませんが、村長など多くの名前が列挙され、伊敷村でも大正大噴火の影響と地震があったことが想像されます。ちなみに諏訪神社の御祭神は、建御名方命たけみなかたのみことと月読命つよみのみことです。



伊敷諏訪神社

## ②陰曆<sup>はいき</sup>廢弃記念碑

諏訪神社の境内に珍しい石碑があります。明治5(1872)年、明治政府の命によって太陰曆から太陽曆に改められました。その後も地域によっては併用する例が見られますが、記念碑は明治43(1910)年に上伊敷の有志によって建てられているので、その後旧曆を使うことを止めたことが想像されます。



陰曆廢弃記念碑

## ③伊爾色<sup>いにしき</sup>神社の防空壕

神社は伊敷の地名の由来にもなっています。イニシキイリノミコトは農業神としても信仰されています。その境内には、戦時中の防空壕があります。近くに陸軍歩兵第45連隊があったことから、関係のある壕と考えられます。規模の大きいものです。



伊爾色神社の防空壕

## ④皆房<sup>かいぼう</sup>諏訪神社の観音像

比志島家の分家である川田家の<sup>よしあき</sup>義朗によって建立されたといわれます。義朗は全国を行脚していた軍師であり修験者でもありました。境内には、観音像が安置されています。

## ⑤夜学舎跡

大正10(1921)年に皆房に設置された青年会が集う建物です。そのことを示す記念碑が諏訪神社の境内にあります。

## ⑥枚聞神社の六地藏

横井は江戸期の主要街道であった出水筋沿いの茶屋として栄えました。横井の守護神として祭られているのが枚聞神社です。この地に鎮座した理由は分かっていませんが、江戸中期には建立されていたようです。境内には六地藏があります。



枚聞神社

## ⑦幸加木神社

江戸期を代表する絵師・木村探元の先祖がこの地に勧請したのが始まりとされ、御祭神は伊弉諾尊<sup>いざなぎのみこと</sup>などです。武運長久の神として戦時中は多くの参拝者があったそうです。周辺は石切り場でもあります。近世期には高架木神社と書いていました。

## ⑧日枝神社

山王社とも呼ばれています。御祭神は猿田彦命<sup>さるたひこのみこと</sup>で、稻荷大明社が合祀されています。境内には戦時中の忠魂碑などの記念碑が立ち並んでいます。



日枝神社

## 2. 豊かな仏教文化

鹿児島郡の北部に位置し、江戸期には武士層の居住もあった伊敷地域には、支配層や武士が信仰した寺院の痕跡が数多く点在します。明治2(1869)年の廃仏毀釈の影響を受けていますが、別の形で信仰が継承され、明治以降は宗派を変化させながら地域に根付いています。こうした仏教関係の物語も伊敷地域らしさにあふれています。

### ①妙谷寺跡

島津義久の菩提寺としての位置づけにある曹洞宗の寺院です。廃仏毀釈によって廃寺となりましたが、かつての住職墓などが墓地の中に残されています。本尊は釈迦如来像で、この地域には門前という地名も残っています。

### ②小山田・犬迫の名号板碑4つ

16世紀に建立された名号「南無阿弥陀仏」が刻まれた板碑が、小山田町に2か所、犬迫町に2か所残されています。特に小山田町にある板碑は規模も大きいものです。名号が刻まれているだけでも県内では貴重です。



名号板碑

### ③皆与志の摩崖仏

磨崖仏がある場所は「釈迦山」とも呼ばれています。溶結凝灰岩が連続する場所に釈迦三尊像をはじめ、月輪菩薩<sup>がちりん</sup>磨崖仏や地藏菩薩が彫り込まれています。地藏菩薩には、庚申供養のために承応4(1655)年に彫ったことが刻まれています。



皆与志の摩崖仏

#### ④御本尊御避難之地碑

大正噴火の際は地震も発生し、鹿児島市街地に大きな被害がありました。そのため、西本願寺鹿児島別院の本尊は一時期郊外に避難することになり、皆与志の塚谷にある西本願寺関連の出張所に遷されました。後年、境内に記念碑が建立されています。



御本尊御避難之地碑

#### ⑤六地藏尊

永禄3（1560）年、島津家15代貴久が敵味方両方を供養するため、南九州に約50基建立したとされる六地藏塔の1つです。この地は、貴久が薩州島津家の実久の軍勢に追われて逃れた場所でもあります。

#### ⑥東帰庵

桂庵玄樹は文明10（1478）年に島津忠昌から鹿児島に招聘されました。朱子学や禅学を修め、薩摩で門人を育て、その学問は薩南学派と呼ばれました。桂庵が晩年に伊敷に結んだ庵を東帰庵といいます。現在は桂庵公園が整備され、一角に桂庵墓(国指定史跡)があります。



東帰庵

#### ⑦入佐公民館の十一面観音像

制作年代などは分かりませんが、公民館内に安置されています。近年まで集落内の石祠の中にありましたが、長年忘れられており、発見された際はハチミツに覆われていたそうです。



入佐公民館の十一面観音像

#### ⑧古別府の地藏

出水筋こと薩摩街道沿いにあたるお堂の中にあります。地域では、厄疫に靈験あらたかとして信仰されていました。お堂の中にあつた板には、地藏の作者は福昌寺や妙円寺の建立に関わった石屋真梁せきおくしんりょう 禅師と書かれています。



古別府の地藏

### ⑨川路山公民館の仏像

制作年代などは分かりませんが、公民館の敷地のお堂に木像の仏像が数体安置されていました。道路拡張のため令和6(2024)年にお堂は解体され、現在は公民館の内部に保管されています。

### ⑩梅ヶ淵観音

正式名称は名突観音ですが、入口が梅ヶ淵なので、参拝者からは梅ヶ淵観音の名前で親しまれています。多くの方々が訪れる場所ですが、この摩崖仏がいつ頃刻まれたのかは不明です。この地は石工がたくさんいる地域であり、その人々によって刻まれたと伝わっています。



梅ヶ淵観音

### ⑪小野の摩崖仏

小野公園の周辺は、溶結凝灰岩の産出地でもあり、かつては石工が活躍していた地域でもあります。公園裏の溶結凝灰岩が産出する崖には、年代不明で、作者不明の摩崖仏があります。高さは1 m以上あり、仏像としても個性的な表情をしています。



小野の摩崖仏

### ⑫皆房の観音像

諏訪神社の境内にあります。寛延4（1751）年に永井市助という人物が建立に関与したようです。

### ⑬福泉寺跡

花野は、江戸期には時宗の浄光明寺の寺領でした。そのため、時宗の寺院の福泉寺があり、集落の墓地には当時の住職墓も残されています。その墓地の入口には石仏も安置されています。

## 3. 「石」の物語

伊敷地域は甲突川の川沿いを中心に、加工しやすい溶結凝灰岩の産出地として知られています。また、石を必要とする鹿児島城下に近く、甲突川を利用した水運の便利さもあり、石工が活躍しました。主に、58 万年前の火砕流堆積物である「河頭石」と33 万年前の火砕流堆積物である「小野石」が代表的な石です。地域には石切り場はもちろんのこと、それらを加工した石蔵などが点在し、石工が活躍し、石切りの盛んな

地域であったことを伝えてくれます。

### ①小野の石蔵

小野の石工は伊敷の中でも鹿児島藩内で知られた職人集団でした。小野には良質の石切り場があるという背景もあります。そのため、地元である小野地区には、公共施設だけでなく個人宅にも石蔵が点在しています。それが現在でも利活用されており、この地区の景観的特徴にもなっています。



JA 鹿児島みらい小野支店の石蔵

### ②新上橋の石材切り出し場

甲突川の石橋架橋の始まりは、弘化2（1845）年の新上橋です。そのため、小野からは溶結凝灰岩の積み出しが行われました。その石切りをした場所に山神などが建立され、碑には新上橋のために切り出したことが刻まれています。



新上橋の石材切り出し場跡

### ③下犬迫の古墓

下犬迫の集落の墓地内に江戸中期の墓石が立ち並ぶ区画があります。一部は床面も石が敷き詰められており、また立派な石祠型の墓もあります。ただ、この墓石が誰のものなのかは分かっていません。すぐ目の前の小高い丘は、かつて山城があったとの言い伝えもあります。



下大迫の古墓

### ④各地の田の神

かつての伊敷村は鹿児島城下の遠名であったことから、田園開発も盛んに行われ、田の神も多数建立されています。小野や皆与志、肥田(市指定)、名突、新村(市指定)、皆房、さらには鹿児島聾学校の敷地内に現在も安置されています。



鹿児島聾学校の田の神

### ⑤桜島爆発記念碑

肥田にも爆発記念碑があります。この記念碑には爆発の経過とともに、津波が襲ってくるという情報から、たくさんの人々が避難してきたことが記されています。記念碑が建立された場所は、かつて田園地帯だったといえます。

#### ⑥川路大警視の記念碑の石

皆与志には、日本の警察制度を創立した川路利良の誕生地があります。そのことを示す記念碑のある場所は現在公園となっていて、警察学校の生徒らの演習先にもなっています。この記念碑は地元の凝灰岩ではなく、庵治石<sup>あじいし</sup>と呼ばれる四国の高松で産出する石を使用しています。



大警視川路利良誕生之地碑

#### 4. 住宅地でありながら「むら」が残る

明治 22(1889)年の町村制施行から昭和 25(1950)年に鹿児島市に編入されるまで、伊敷地域は伊敷村でした。上伊敷村・下伊敷村・小野村・犬迫村・花野村・比志島村・皆房村・小山田村があり、田畑が広がっていました。鹿児島城下の遠名として、城下への農作物の供給地でもありました。現在は住宅地や商業地が拡大する状況にありますが、それでもかつての農村地域の良さが残っています。

#### ①大重谷の湧水地

個人所有の水源地です。吉野台地の縁から湧き出す水を水くみ場などに利用するものです。水道施設として、石造りの構造物が現役として使用されています。

#### ②樟脳工場跡

昭和 30(1955)年頃までクスノキをチップにして樟脳を製造していた場所です。現在は高速道路が通っているため痕跡はありません。樟脳工場は飯山にもあったと言われています。

#### ③鶴田義行の像

アムステルダムオリンピックとロサンゼルスオリンピックの平泳ぎ競技において 2大会連続で金メダルを獲得したのが鶴田義行です。銅像のある場所が生家で、義行は子どもの頃、甲突川で水泳を練習していたと伝わります。

#### ④地突き踊り

建物を建てる際の地鎮式などで行われる地突き踊りで、女性たちが中心になって行っていました。近年まで脇田地区に同好会がありました。かつて、西田橋を架橋する際の地突きも伊敷の人々であったと言います。昔は各地で「どんじい」と呼ばれる柱を持ち上げて行っていたようです。

#### ⑤太鼓踊り（小山田）

かつては、小山田の中で4組あり、それぞれの神社に奉納していましたが、諏訪神社に神社が合祀されてからは、旧暦6月28日に諏訪神社に奉納するようになりました。平成16(2004)年以降は小山田校区子ども会太鼓踊り保存会が発足して、その継承に努めています。

#### ⑥日当平の射撃場

伊敷に設置された陸軍歩兵第45連隊の射撃練習場が日当平にありました。シラスの崖に向かって射撃訓練が行われていて「だいば」と呼ばれていました。現在は住宅地となり、当時の面影はありません。

#### ⑦伊敷長なす

伊敷で盛んに生産されていた伝統野菜です。玉江小学校では「伊敷長なすの里帰りプロジェクト」を行っています。畑作りから、苗の植え付け、水やりなどの世話、収穫、種取りまで栽培を一貫して行い、歴史や伝統野菜について調べ学習にも取り組んでいます。また広報や販売を通じて地域へ広げる活動も行っています。

#### ⑧<sup>かくら</sup>鹿倉山の狩場

皆与志と吉田の境目あたりです。伝えによると、島津斉彬が藩主に就任する前に祖父の島津斉宜と狩りに来て、一緒に鹿を2頭ずつ射止めたそうです。

#### ⑨河頭の温泉

温泉の発見は島津斉彬が当主であった頃とされています。その後、明治12(1879)年には開発が本格化し、昭和10(1935)年前後には5つの旅館がありました。湧出温度が低く、終戦後は徐々に訪問者も少なくなり、現在は営業する店舗はありません。

#### ⑩ふずんの滝（発電所跡）

地元の方々が「ふずんの滝」と呼ぶ段差が連続する滝が久木田川にあります。この段差を利用し、明治33(1900)年に水力発電所が建設されました。伊敷地域には九州でも初めてとなる水力発電所が小山田にありますが、この河頭の発電所は2番目となるものです。

【伊敷地域の主な未指定文化財リスト】

1. 地域のよりどころの神社にはなにかがある	
1	桜島爆震記念碑(伊敷諏訪神社)
2	陰暦廃弁記念碑(伊敷諏訪神社)
3	防空壕(伊爾色神社)
4	観音像(皆房諏訪神社)
5	夜学舎跡(皆房諏訪神社)
6	六地藏(枚聞神社)
7	高架木神社
8	忠魂碑(日枝神社)
2. 豊かな仏教文化	
9	妙谷寺跡
10	小山田・犬迫の名号板碑四つ
11	皆与志の摩崖仏
12	御本尊御避難之地碑
13	六地藏尊
14	入佐公民館の十一面観音像
15	古別府の地藏
16	川路山公民館の仏像
17	梅ヶ淵観音
18	小野の摩崖仏
19	皆房の観音像
20	福泉寺跡
3. 「石」のものがたり	
21	小野の石蔵
22	新上橋の石材切り出し場
23	下犬迫の古墓
24	各地の田の神
25	桜島爆発記念碑
26	川路大警視の記念碑の石
4. 住宅地でありながら「むら」が残る	
27	大重谷の湧水地
28	樟脳工場跡
29	鶴田義行の像
30	地突き踊り
31	太鼓踊り(小山田)

3 2	日当平の射撃場
3 3	伊敷の長ナス
3 4	鹿倉山の狩場
3 5	河頭の温泉
3 6	ふずんの滝（発電所跡）